



朝十小だより

学校教育目標 意欲ある子・考える子・健やかな子
～ 豊かな学びで楽しさと笑顔あふれる朝霞十小 ～

朝霞市立朝霞第十小学校

令和6年度 10月号
〒351-0023
朝霞市大字溝沼828-1
TEL 048-469-5443
在籍児童数 732名

23歳になります！

校長 岩崎 英雄

「暑さ寒さも彼岸まで」と申しますが、朝晩は多少の「秋」を感じるものの、この9月も暑い暑い毎日が続きました。「異常気象」と言われることが多くありましたが、これからは、この気候が「通常」になるのだと思います。2学期が始まって1ヶ月、親子除草や家庭科の応援、読み聞かせ等、保護者や地域の皆様には大変お世話になりました。今年の運動会は10月12日（土）の開催となります。練習も本格的になってきましたので、楽しみにしていただければと思います。



「長寿を祝う会」で素敵な歌声を届けたうたの輪のメンバー

さて、10月10日は本校の開校記念日です。今年で、開校24年目（23歳）となります。2年前の学校だよりでも紹介したのですが、あらためて「開校」について、おさらいしたいと思います。

平成13年4月1日、児童数の増加に伴い、一小・五小・六小から分離し、朝霞市で10番目の小学校として、児童数682名、20学級、教職員30名で開校しました。沿革史によると、平成13年10月10日に校歌と校章が制定され、この日を開校記念日としたそうです。また、記念式典がその年の12月15日に開催されました。

校章はデザイナーの小野寺ゆみ氏に制作を依頼し、上部に黒目川べりに咲く私たちにも親しみのある桜の花と朝霞市の木「ケヤキ」の葉を配し、中央部には、飛翔・羽ばたきを意味する羽根を、下部には、協調や和や無限の広がりを意味する10個の円や曲線を配したとのこと。タイトル左 校章参照 全体として、互いに協調し合って未来に向かって羽ばたこうということです。校章のデザインから類推する



開校時の正門から見た校舎

と、本校の周りのほとんどが桜の木に囲まれている理由もわかります。写真は、開校当時の記念写真ですが、桜の木も当然ながら現在のように生い茂っていません。また、校歌ですが、作詞については青森県生まれの詩人、榎皓志（まきこうし）氏（1924～2007）、作曲が多くの学校の校歌を手がけた坂下滉（さかしたこう）氏にお願いしたとあります。榎氏の歌詞原稿の下段には「覚え書き」があり、そこには

「寄せていただいた生徒さん達の御要望はつとめて織りこんだつもりです。」と書かれています。つまり、校歌作成にあたっては、子供たちの要望を聞く機会があったことがわかります。詞の解釈についても「一番に、21世紀初頭に生誕した本校の歴史と朝霞の地名の香り、並びに『十』の数詞を歌いこみました。十（とお）は「十全、すべて、みんな」の意を含みます。また、『友よ ともに』など、頭韻『と』のひびきを通わせてみました。」とあります。

校章や校歌に込められた、開校に関わった多くの方々の願いや思いを胸に、これからも子供たちを真ん中に、学校・保護者・地域の皆様と新たな伝統を築き上げていくことができるよう、教職員一同、取り組んでいきたいと思ひます。